

そ お し し へん さん 曾於市史編纂だより

第1号

曾於市史の編纂を始めます

平成17年(2005)7月1日に財部町・末吉町・大隅町の3町が合併し、曾於市が誕生して、20年が経とうとしています。市制施行から現在までの間に様々な移り変わりがあり、また、考古・歴史・民俗等の各分野についても、新しい発見や修正・追記を要する事項などもあることから、曾於市史の編纂事業を立ち上げました。

曾於市の名を冠した郷土史としては、初めての刊行となり、写真や図表を多用し、専門的な事柄も分かりやすく、読みやすい市史を目指して、編纂を進めていく予定です。

今後、曾於市史編纂に携わる先生方や担当職員が、市民の皆様に対して、昔のことなどいろいろと尋ねることがあるかもしれません。曾於市史の完成を目指して、曾於市民の皆様及び関係各位の皆様に対しご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



曾於市誕生記念碑

曾於市史編纂事業のはじまりにあたって

このたび、私たち郷土の歴史を編纂する新たなプロジェクトを立ち上げる運びとなりました。合併前の旧3町時代にもそれぞれ郷土史を編纂してありましたが、すでに刊行から30年以上も経ち、新たな発見や内容の訂正等の問題も見られ、新しい郷土史の発刊が待たれていました。そこで市制25周年を目指して、「曾於市史」を新たに編纂することになりました。市史編纂は、単なる過去の記録を残す作業でなく、地域の文化や伝統、先人たちの知恵を次世代に伝える重要な使命と考えております。

私たちの郷土には、古くからの言い伝えや出来事、様々な物語が息づいています。それらは、地域のアイデンティティや共同体意識を形成し、私たちの生活や価値観に深く根付いています。市史を編纂することにより、埋もれた地域の貴重な文化や自然などを掘り起こし、地域のよさや誇りを再確認する機会を提供したいと考えています。

また、市史編纂は地域の発展にも寄与します。過去の教訓を学び、先人の知恵を受け継ぎ、郷土の未来に向けた新たな道筋を見出すための指針にもなります。地域の皆様と共に、このプロジェクトを成功させ、より豊かな曾於市を築いていけるものと信じています。

市史編纂を成功させるためには、市民の皆様のご理解が何よりも大事となります。ぜひ資料収集など皆様のご協力をお願い申し上げます。

共に郷土の歴史を紡ぎ、未来へとつなげていきましょう。



曾於市史編纂委員長

中村 涼一
(教育長)

● 曾於市史^{へんさん}編纂の基本方針

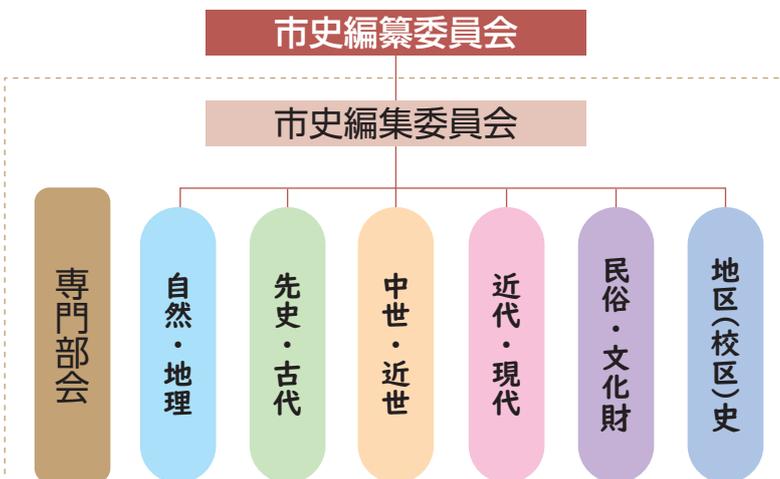
1. 郷土の歴史、文化や自然、先人たちの営みを明らかにしていくことで現在を見つめ直し、市民の郷土に対する関心と愛着を深められるよう、わかりやすく、広く親しまれるものを目指します。
2. 旧町の郷土史誌について必要な見直しを行うとともに、曾於市誕生への経過や歴史的変遷をたどりながら、近年の調査・研究で得られた知見や新たな資料を盛り込み、学術的に高い水準のものを目指します。
3. 市民に親しまれ、まちづくりや生涯学習、学校教育などで活用される市史となるように、編纂段階から市民等の参画や資料収集等の情報提供を求め、地域の歴史を掘り起こすことに努めます。

● 事業計画

年	内 容	備 考
令和 6 年 (2024)	曾於市史編纂事業開始 (令和 6 年 12 月～) 資料収集	編纂委員会・編集委員会設置 編纂だより刊行
令和 7 年 (2025)	資料収集・調査	編纂だより刊行
令和 8 年 (2026)	資料収集・調査	編纂だより刊行
令和 9 年 (2027)	資料収集・補足調査・原稿作成	編纂だより刊行
令和 10 年 (2028)	原稿作成・入稿	編纂だより刊行
令和 11 年 (2029)	校正・製本作業	市史刊行の案内
令和 12 年 (2030)	市史刊行 (市制施行 25 年)	市史刊行
令和 13 年 (2031)	市史簡易版作成	
令和 14 年 (2032)	簡易版刊行	簡易版刊行

※調査の成果の進捗状況等によって、計画に変更が生じる可能性があります

● 市史^{へんさん}編纂事業の組織



※編集委員会及び専門部会の委員の皆様が、調査の担当を行います。

市史編纂委員会のメンバー

- 中村 涼一 (曾於市教育長)
- 米澤 敬昭 (学識者)
- 原口 泉 (市史編集委員長)
- 勝目 興郎 (文化財の代表)
- 大津 亮二 (地域の代表)
- 八木 達範 (曾於市副市長)
- 崎山 健文 (黎明館からオブザーバー参加)

※状況に応じて変更となる場合もあります

各部門と編集委員の方々 (敬称略) ※編集委員は専門部会長を兼ねています

● 自然・地理編

寺田 仁志 (元県立博物館学芸員など)

植物の専門家。文化庁調査委員も兼ねており、県内あちらこちらを駆け回っています。著書『鹿児島植物記』など。

● 先史・古代編

前迫 亮一 (元鹿児島県埋蔵文化財センター所長など)

考古学の専門家。上野原遺跡(霧島市)に匹敵すると言われた定塚遺跡(大隅町岩川)の発掘調査も手掛けています。

● 中世・近世編

新名 一仁 (宮崎市史編さん室専門員など)

専門は日本中世史。島津氏に関する著書多数で、今や島津氏研究の第一人者の方です。著書『島津四兄弟の九州統一戦』など。

● 近代・現代編

原口 泉 (志学館大学教授・鹿児島大学名誉教授など)

言わずと知れた鹿児島の誇る歴史学者。大河ドラマ『篤姫』『西郷どん』などの時代考証や、『鹿児島県の近現代』『西郷どんとよばれた男』『薩摩藩と明治維新』など著書も多数あります。

● 民俗・文化財編

牧島 知子 (鹿児島市文化財保護審議会副会長など)

細やかな視点で民俗風習を記録・研究。弥五郎どん祭り調査事業でも大いに貢献してくださいました。

● 地区(校区)史編

勝目 興郎 (曾於市文化財保護審議会会長など)

曾於市の歴史・文化に最も詳しい人物。今後、皆様の地域にお尋ねする機会も増加すると思います。

～曾於市民の皆様とともに～

この度、曾於市史編集委員長に就任いたしました原口です。

曾於市編集委員会は、6つの部会をもって発足し、いよいよ曾於市史編纂事業が本格的に始まります。

郷土の歴史の掘り起こしに努め、豊かな自然と歴史に恵まれた曾於市にふさわしい市史を、市民の皆様とともに考えながら取り組んでまいります。



曾於市史編集委員長
原口 泉
(志学館大学教授)

編集委員は、これまで曾於市で様々な立場から調査・研究に携わって頂いた方々で構成されています。編集委員をサポートする専門部会の委員については、今後、お知らせしていきます。

これまで曾於市で刊行された郷土史誌

昭和 32 年	末吉郷土史 (初 版)	古代から昭和 30 年代まで
昭和 44 年	大隅町誌 (初 版)	古代から昭和 40 年代まで
昭和 45 年	末吉郷土史 (第 2 版)	古代から昭和 40 年代まで
昭和 47 年	財部町郷土史 (初 版)	古代から昭和 40 年代まで
昭和 62 年	末吉郷土史 (第 3 版)	古代から昭和後期まで
平成 2 年	大隅町誌 (改訂版)	古代から昭和末期まで
平成 9 年	財部町郷土史 (改訂版)	古代から平成初期まで
平成 10 年	大隅町誌 (文書類)	町内の古文書等の記録
平成 17 年	大隅町誌 (文書類Ⅱ)	町内の古文書等の記録
平成 19 年	財部町郷土史 (追補版)	平成から平成 17 年の合併まで
平成 21 年	大隅町誌 (追補版)	平成から平成 17 年の合併まで
平成 22 年	末吉郷土史 (第 4 版)	昭和末期から平成 17 年(3町合併)まで



※現在、平成 17 年の合併までの郷土史は刊行済みですが、今回の『曾於市史』では、新たな発見や書き換えられた歴史を踏まえたうえで編纂してまいります。

郷土史販売のご案内 ～郷土の歴史をあらためて振り返ってみませんか～

末吉郷土史 (第 3 版) ……………	2,000 円	大隅町誌 (追補版) ……………	2,000 円
末吉郷土史 (第 4 版) ……………	3,000 円	大隅町誌 (文書類) ……………	500 円
財部町郷土史 (改訂版) ……………	2,000 円	大隅町誌 (文書類Ⅱ) ……………	500 円
財部町郷土史 (追補版) ……………	2,000 円		

購入希望の方は、生涯学習課または曾於市立図書館本館へお問い合わせください。

絶版した大隅町誌(改訂版)は、曾於市ホームページからダウンロード(PDF)できます。

曾於市に
ゆかりのある

資料・写真・情報を探しています

あなたの家や、公民館の倉庫などに、こんなものはありませんか？

古文書・古記録



日記（日誌）や手紙



地域や学校などで 発行された記念誌



古写真・アルバム



カセットテープ・ビデオテープ などの音声・映像記録



実物資料



何でも情報を求めています

- 古くから言い伝えられている話
- 人々にあまり知られていない史跡や伝承地
- 今も残る、あるいは途絶えた年中行事・風習・集まり
- 昔の暮らし（生活様式・生活文化・郷土食）
- 郷土の発展に貢献した人物
- 昔の街並みのこと
- なりわい（農林業など）のこと
- 珍しい動植物や地形
- 昔の交通（古道・鉄道）のこと
- 戦争のこと

心当たりのある方や、情報等をお持ちの方は、下記（生涯学習課文化財係）までお気軽にご連絡ください！

市史編纂に参加してみませんか？

市史編纂に興味・関心のある方、資料収集・資料整理など市史づくりのサポートに関わってみたいという方がいらっしゃいましたら、下記（生涯学習課文化財係）まで、お気軽にご相談ください。

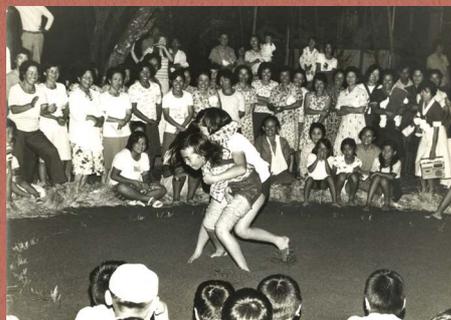
写真で振り返る曾於市（このような写真も探しています）



昭和 38 年頃の松島屋交差点周辺。
国道 269 が通り、街並みが大きく
変わりました



昭和 30 年代の恒吉小学校。現在の
恒吉地区公民館に立ち、後ろの山
は恒吉城跡です



財部の川内集落の十五夜（昭和 50 年
9 月 20 日）。昔は何処でもこのよ
うな風景がありました

そ お し し へん さん
曾於市史編纂だより

第 1 号

発行日：令和 7 年 3 月 31 日

連絡先（曾於市史編纂事務局）

〒899-8692 鹿児島県曾於市末吉町二之方1980番地（曾於市役所 本庁舎本館3階）

曾於市教育委員会 生涯学習課 文化財係

電話 0986-76-8873 / FAX 0986-36-7500

メールアドレス o-syakyou@city.soo.lg.jp